

川口のユニパック 抗菌フィルター開発

エアロゾル感染を防止

国立競技場などで採用

空調用フィルター製造のユニパック(本社・川口市、松江昭彦社長)は、細菌やカビ、ウイルスなどの増殖を抑える銀イオン「HydroAg+(ハイドロエージープラス)」をコーティングした「超親水性持続抗菌フィルター」を富士フィルムと開発した。空气中に浮遊するウイルスを30分間で99・98%除去したという第三者機関での試験結果もあり、新型コロナウイルスのエアロゾル感染対策に期待が高まっている。川口市内の展示会で一般向けに初披露されると、ビルのオーナーなどから問い合わせが相次いだ。

(足立英樹)

今年3月、国が新型コロナウイルスこと一などの条件で開発を進め、ルスの新たな感染経路として認定 業界初の製品化を実現した。「エアロゾル感染」は、飛沫(ひま)より小さく、水分を含む粒子が長時間浮遊することから、換気の悪い密閉空間では少し離れた距離の人にも感染するリスクがある。一般的なフィルターでは捕集が難しく、学校や公共施設、オフィスなどでは集団感染を引き起こす危険性がある。

ユニパックは①既存の業務用エアコン・空調機に取り付けられ、着脱が簡単②洗浄再利用できる③クリーンルームなどで使われる高性能フィルターに準ずるウイルス除去性能を有し低圧力損失である

開発されたフィルターは既製品と同一寸法で作られ、吸い込みグレルにワンタッチで装置可能。従来必要な機器の定期的なコイル洗浄も不要で、空気側熱交換器の目詰まりもないため消費電力を25%削減できるといふ。

これまで川口市内の放課後児童クラブ42施設や保健所、国立競技場や関西国際空港などで採用された。松江社長は「今年はいんフルエンザの流行も懸念されているが、エアロゾル感染対策により院内感染症や花粉症、PM2・5などの大幅な室内環境の改善が期待できる。未来を担う子どもたちの教育環境や医療施設などに導入を進め、より安心な空間をつくりたい」と話している。



川口市の市産品フェアで初めて披露されたエアロゾル感染対策フィルターは10月21日、川口市上青木のSKIPシティ